

Fly high



平成27年1月28日発行
新潟県立柏崎常盤高等学校
1学年だより 第17号

3学期中間考査が終了しました。

新年を迎えたと思っていたら、1月も終わってしまいました。今週はスキー授業もあります。体調管理をしっかりとして、事故のないように努めましょう。

そしてスキー授業後はしっかりと気をひきしめ、学年の締めくくりにふさわしい成果となるよう毎日を丁寧に過ごしていきましょう。

成績について

冬休み中に、2学期の成績で赤点（通知表でいうと評定1）の科目がある人にはに通知を送り、3科目以上ある生徒の保護者の方には来校していただき、今後のことについて担任と相談をしました。

中学校とは違い、高校では全科目の単位が認定されないと、進級できません。

通知表の「学年」の成績において、各科目の成績評定が5段階評定の2（40点）以上で、かつ欠席時数が3分の1未満のとき、その科目の単位を認定します。不認定科目が3科目以内のときには、追認考査を受けることができますが、ここで気をつけて欲しいのは、以下の点です。

39点以下の科目が4科目以上あるか、または出席時数が3分の2に満たない科目が1つでもある場合は、追認考査も受けられない。この場合、原級留置となり、進級することができない。
また、追認考査を受けても、1科目でも不合格の科目があった場合は原級留置となり、進級することができない。

2学期の成績で赤点の科目が複数ある人は、非常に厳しいです。3学期はこれまで以上の努力をしてください。宿題や課題はきちんと取り組むのは当然のことながら、予習復習をかかさずやり授業にのぞむこと。後悔しないために今やるべきことはきちんとやりましょう。

努力しなければならないのは、他の誰でもなく、自分自身です。そして、努力をせずに後悔しなければならないのも、自分自身です。ちなみに5段階評定は以下の通りです。

80点以上	5
65点～79点	4
50点～64点	3
40点～49点	2
39点以下	1



「もうちょっと勉強しておけばよかった…」 「提出物をしっかりと出しておけばよかった…」 と気付いてからでは遅いのです。進級に向けて、しっかりとしたラストスパートを切りましょう。

コラム

あなたがやりたいことは、みんながやりたいことかもしれない。

今年一年、様々な進路学習、講演会等を体験してきて、そろそろ進路に関する「うっすらとした希望」のようなものが芽生えはじめた人もいるかもしれません。ひょっとすると、「〇〇になりたい!」「□□の資格（しかくしかくの資格、だって。むふふ。）がとれる学校に行きたい!」なんて具体的で明確な希望を持ち始めた人もいるでしょう。

そこで、少し進路に関する、当たり前だけど意外と忘れがちなことを伝えておきます。それは、「**あなたがやりたいことは、みんなもやりたい。**」ということです。

「楽しんで高い給料が取れる仕事に就きたい。」「仕事はキツイかもしれないけれど、人に感謝される仕事がしたい。」「誰かの役に立てる仕事がしたい。」「仕事をすることで自分の個性を社会に役立てたい。」「自分の得意なことや好きなことを仕事にしたい。」「フリーターやニートにはなりたくない。」……。

でもこれ、みんなが考えることなんですよ。君たちは一生懸命悩んで、保護者の方と相談して、「総合」の講演会もよく聞いて、そうやって考え出した答えかもしれないですが、実は、ほとんどの高校1年生が似たような答えを出しはじめています。

と、いうことは、残念だけれどそこに「競争」が生じます。「競争」がある以上、自分のやりたいことを実現できない人も出てきます。本当に厳しい言い方ですが、全員の第1希望が100%かなう社会ではないのです。でも、そういう社会であることを知りながら、**私たち常盤高校の職員は、「せめて、目の前にいる常盤高校生は、全員が第1希望をかなえてほしい。」と思っています。**高校生の時に考えた目標は、それが変わらないのであれば、かなえてほしいのです。

だから、しつこく「勉強しようよ!」「学習習慣を身につけようよ!」と言うのです。

では、「勉強」は何のためにするのでしょうか。勉強は成績や受験のためだけにするものではありません。（学校を選ばなければ、そして資金が調達できれば）大学や専門学校に行くことは可能です。そこでがんばって資格を取ることも可能です。でも、**大学に行ったからといって、資格を持っていたからといって、就職が保証されるわけではありません。**それは、どの大学・専門学校でもほぼ同じです。「いい大学に入れば、いい就職がある」時代はとっくの昔に過ぎ去ったのです。

そこで、結局さっきの話に戻ります。私たちは、上の学校に行くために勉強するのではなく、「**今考えている第1希望の夢**」をかなえて、**その先に社会人として活躍するための「基礎力」や「学ぶ習慣」**を身につけなければならぬから、**勉強をする**のです。

中間考査が終わったばかりで、一息ついているところかもしれませんが、期末考査も迫っています。ちょっと口うるさいようですが、そのあたり、少一し、考えてみてはいかがでしょうか？

